



平成 29 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 神鋼鋼線工業株式会社
代表者名 取締役社長 藤 井 晃 二
(コード番号 5660 東証第 2 部)
問合せ先 取締役総務本部長兼同総務部長兼
企画部長
吉 田 裕 彦
(TEL 06-6411-1051)

(訂正)「平成 26 年 3 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」
の一部訂正について

当社は、平成 29 年 2 月 8 日付「過年度の連結財務諸表等に関する誤謬の判明及び平成 29 年 3 月期第 3 四半期決算発表の延期に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成 26 年 2 月 6 日付「平成 26 年 3 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了しましたので、訂正内容についてお知らせいたします。

なお、訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には__を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月6日

上場会社名 神鋼鋼線工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5660 URL http://www.shinko-wire.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 小南 孝教
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務本部長兼総務部長 (氏名) 藤森 直樹 (TEL) 06(6411)1051
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	20,752	1.9	714	5.8	583	△3.5	261	△24.4
25年3月期第3四半期	20,357	△2.7	675	△36.3	604	△34.8	345	△4.3

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 406百万円(△1.2%) 25年3月期第3四半期 411百万円(△8.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	5.02	—
25年3月期第3四半期	6.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	44,557	19,194	35.6
25年3月期	44,950	19,068	35.1

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 15,849百万円 25年3月期 15,756百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.00	—	3.00	5.00
26年3月期	—	2.00	—		
26年3月期(予想)				3.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	28,580	3.1	1,200	10.0	1,020	3.0	530	△1.3	10.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）株式会社テザック神鋼ワイヤロープ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年3月期3Q	58,698,864株	25年3月期	58,698,864株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	6,631,334株	25年3月期	6,618,795株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期3Q	52,075,803株	25年3月期3Q	52,087,565株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考) 個別業績予想

平成26年3月期の個別業績予想 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	22,140	2.7	640	△18.9	400	△14.9	7.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、大胆な金融緩和・財政政策等への期待感を背景として、円高の是正や株価の上昇が進んだことにより先行きの景況感に明るさはみられたものの、中国経済の成長鈍化による減速感など、依然先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、民間投資関連需要では自動車、住宅を中心に消費税率引上げに伴う駆け込み需要もみられ、持ち直しの動きがありましたが、公共投資関連需要では補正予算の効果などにより回復傾向にあるものの出足は鈍く厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループでは、高付加価値製品の販売拡大による収益力の向上を図ってまいりました。また、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇等に対しては販売価格の是正に努めるとともに収益改善活動や新生産プロジェクトを引き続き推進し、コスト競争力の強化を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,752百万円と前年同期に比べ1.9%の増収となり、営業利益は714百万円（前年同期比5.8%増加）、経常利益は583百万円（前年同期比3.5%減少）となりました。また法人税等および少数株主利益を差し引いた後の四半期純利益は261百万円（前年同期比24.4%減少）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント毎の業績は次のとおりです。

<特殊鋼線関連事業>

（PC関連製品）公共事業関連では、工事入札は国交省を中心に前年度を上回る落札額になっており、人手不足や用地買収の遅れによる工事開始の遅延等が見られるなか市場環境は堅調に推移し、前年同期に比べ販売数量、販売金額とも増加しました。民需関連でも、マンション需要、プロジェクト物件も堅調に推移し、前年同期に比べ販売数量、売上金額とも増加しました。

（ばね・特殊線関連製品）主要な需要分野である自動車産業向けの弁ばね用鋼線（オイルテンパー線）は、自動車メーカーの国内生産が好調に推移している中、消費税率引上げに伴う駆け込み需要に加え、日系メーカーの中国での生産も順調に回復していることから、前年同期に比べ販売数量・売上金額とも増加しました。また、ばね用ニッケルめっき鋼線は、欧州経済の停滞や中国経済の成長鈍化の中、拡販に努め、前年同期に比べ販売数量・売上金額とも増加しました。ステンレス鋼線は、自動車関連製品向け国内需要が好調であり、住宅関連需要も増加していることから、前年同期に比べ販売数量は増加しましたものの、売上金額は減少しました。

その結果、特殊鋼線関連事業全体の売上高は10,483百万円と前年同期に比べ4.1%増加となり、営業利益は271百万円と前年同期に比べ84百万円の減少となりました。

<鋼索関連事業>

ワイヤロープの国内需要は期待通りにはいかなかったものの、公共投資の増加による需要増加により、国内向け販売数量、売上金額とも前年同期に比べ増加となりました。一方、輸出については、受注は伸びているものの出荷増加にはタイムラグがあり、プラス要因とはなりません。

その結果、鋼索関連事業全体の売上高は9,015百万円と前年同期に比べ3.2%増加となり、営業利益は370百万円と前年同期に比べ189百万円の増加となりました。

<エンジニアリング関連事業>

吊構造用ケーブルでは、橋梁向けの売上金額は前年同期に比べ増加しましたが、建築向けの売上金額は減少しました。また、落橋防止ケーブルの売上金額は前年同期に比べ減少しましたが、道路騒音防止関連製品の売上金額は前年同期に比べ増加しました。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は1,206百万円と前年同期に比べ19.9%減少となり、営業利益は37百万円と前年同期に比べ68百万円の減少となりました。

<その他>

不動産関連事業の売上高は46百万円と前年同期に比べ1.5%増加となり、営業利益は35百万円と前年同期に比べ2百万円の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末との比較において、次のとおりとなりました。総資産は、393百万円減少の44,557百万円となりました。これは主として現金及び預金が減少したことによるものです。

負債は、519百万円減少の25,362百万円となりました。これは主として賞与引当金が減少したことによるものです。

純資産は、126百万円増加の19,194百万円となりました。これは主としてその他有価証券評価差額金の増加によるものです。また、自己資本比率は35.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の通期の業績予想につきましては、当第3四半期累計期間までの業績動向を踏まえ、また今後の需要動向等を勘案して見直しを行った結果、前回公表（平成25年10月23日）いたしました業績予想を修正いたします。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,574	7,856
受取手形及び売掛金	9,845	9,909
商品及び製品	3,851	3,916
仕掛品	2,256	2,276
原材料及び貯蔵品	1,466	1,677
繰延税金資産	316	189
その他	565	595
貸倒引当金	△46	△48
流動資産合計	26,832	26,371
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,241	4,151
機械装置及び運搬具（純額）	4,445	4,269
工具、器具及び備品（純額）	154	142
土地	6,041	6,041
リース資産（純額）	54	76
建設仮勘定	50	105
有形固定資産合計	14,987	14,787
無形固定資産	245	225
投資その他の資産		
投資有価証券	1,166	1,442
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	916	897
その他	1,004	869
貸倒引当金	△201	△36
投資その他の資産合計	2,885	3,172
固定資産合計	18,118	18,185
資産合計	44,950	44,557

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,528	2,654
短期借入金	5,789	6,872
リース債務	22	29
未払費用	1,180	1,170
未払法人税等	267	98
賞与引当金	517	224
その他	620	481
流動負債合計	<u>10,926</u>	<u>11,531</u>
固定負債		
長期借入金	11,595	10,359
リース債務	38	59
退職給付引当金	2,296	2,413
役員退職慰労引当金	58	57
環境対策引当金	8	8
繰延税金負債	489	493
負ののれん	30	—
その他	437	438
固定負債合計	<u>14,955</u>	<u>13,830</u>
負債合計	<u>25,881</u>	<u>25,362</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	2,616	2,589
自己株式	△1,353	△1,355
株主資本合計	<u>15,680</u>	<u>15,651</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	75	112
為替換算調整勘定	0	85
その他の包括利益累計額合計	<u>75</u>	<u>198</u>
少数株主持分	<u>3,312</u>	<u>3,345</u>
純資産合計	<u>19,068</u>	<u>19,194</u>
負債純資産合計	<u>44,950</u>	<u>44,557</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	20,357	20,752
売上原価	16,443	16,667
売上総利益	3,914	4,084
販売費及び一般管理費	3,238	3,369
営業利益	675	714
営業外収益		
受取利息	36	34
受取配当金	11	13
負ののれん償却額	46	30
固定資産賃貸料	36	24
その他	50	21
営業外収益合計	181	124
営業外費用		
支払利息	132	138
持分法による投資損失	39	17
その他	79	99
営業外費用合計	252	256
経常利益	604	583
税金等調整前四半期純利益	604	583
法人税、住民税及び事業税	134	142
法人税等調整額	85	127
法人税等合計	220	270
少数株主損益調整前四半期純利益	384	313
少数株主利益	38	52
四半期純利益	345	261

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>384</u>	<u>313</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	41
為替換算調整勘定	0	1
持分法適用会社に対する持分相当額	<u>二</u>	<u>49</u>
その他の包括利益合計	<u>26</u>	<u>92</u>
四半期包括利益	<u>411</u>	<u>406</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>373</u>	<u>348</u>
少数株主に係る四半期包括利益	<u>37</u>	<u>57</u>

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,066	8,737	1,507	20,311	46	20,357	—	20,357
セグメント間の内部売上 高又は振替高	839	135	1	976	—	976	△976	—
計	10,905	8,873	1,509	21,287	46	21,334	△976	20,357
セグメント利益	355	181	105	642	33	675	—	675

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

2 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,483	9,015	1,206	20,705	46	20,752	—	20,752
セグメント間の内部売上 高又は振替高	554	160	1	716	—	716	△716	—
計	11,038	9,175	1,208	21,422	46	21,468	△716	20,752
セグメント利益	271	370	37	679	35	714	—	714

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(訂正前)



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月6日

上場会社名 神鋼鋼線工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5660 URL http://www.shinko-wire.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 小南 孝教
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務本部長兼総務部長 (氏名) 藤森 直樹 (TEL) 06(6411)1051
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	20,752	1.9	721	6.4	595	△1.0	263	△22.9
25年3月期第3四半期	20,366	△2.7	678	△36.0	601	△35.1	341	10.8

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 354百万円(△12.9%) 25年3月期第3四半期 407百万円(2.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	5.05	—
25年3月期第3四半期	6.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	44,753	19,357	35.8
25年3月期	45,162	19,289	35.4

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 16,026百万円 25年3月期 15,987百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.00	—	3.00	5.00
26年3月期	—	2.00	—		
26年3月期(予想)				3.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	28,580	3.1	1,200	10.0	1,020	3.0	530	△1.3	10.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）株式会社テザック神鋼ワイヤロープ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年3月期3Q	58,698,864株	25年3月期	58,698,864株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	6,631,334株	25年3月期	6,618,795株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期3Q	52,075,803株	25年3月期3Q	52,087,565株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考) 個別業績予想

平成26年3月期の個別業績予想 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	22,140	2.7	640	△18.9	400	△14.9	7.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、大胆な金融緩和・財政政策等への期待感を背景として、円高の是正や株価の上昇が進んだことにより先行きの景況感に明るさはみられたものの、中国経済の成長鈍化による減速感など、依然先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、民間投資関連需要では自動車、住宅を中心に消費税率引上げに伴う駆け込み需要もみられ、持ち直しの動きがありましたが、公共投資関連需要では補正予算の効果などにより回復傾向にあるものの出足は鈍く厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループでは、高付加価値製品の販売拡大による収益力の向上を図ってまいりました。また、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇等に対しては販売価格の是正に努めるとともに収益改善活動や新生産プロジェクトを引き続き推進し、コスト競争力の強化を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,752百万円と前年同期に比べ1.9%の増収となり、営業利益は721百万円（前年同期比6.4%増加）、経常利益は595百万円（前年同期比1.0%減少）となりました。また法人税等および少数株主利益を差し引いた後の四半期純利益は263百万円（前年同期比22.9%減少）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント毎の業績は次のとおりです。

<特殊鋼線関連事業>

（PC関連製品）公共事業関連では、工事入札は国交省を中心に前年度を上回る落札額になっており、人手不足や用地買収の遅れによる工事開始の遅延等が見られるなか市場環境は堅調に推移し、前年同期に比べ販売数量、販売金額とも増加しました。民需関連でも、マンション需要、プロジェクト物件も堅調に推移し、前年同期に比べ販売数量、売上金額とも増加しました。

（ばね・特殊線関連製品）主要な需要分野である自動車産業向けの弁ばね用鋼線（オイルテンパー線）は、自動車メーカーの国内生産が好調に推移している中、消費税率引上げに伴う駆け込み需要に加え、日系メーカーの中国での生産も順調に回復していることから、前年同期に比べ販売数量・売上金額とも増加しました。また、ばね用ニッケルめっき鋼線は、欧州経済の停滞や中国経済の成長鈍化の中、拡販に努め、前年同期に比べ販売数量・売上金額とも増加しました。ステンレス鋼線は、自動車関連製品向け国内需要が好調であり、住宅関連需要も増加していることから、前年同期に比べ販売数量は増加しましたものの、売上金額は減少しました。

その結果、特殊鋼線関連事業全体の売上高は10,483百万円と前年同期に比べ4.1%増加となり、営業利益は268百万円と前年同期に比べ94百万円の減少となりました。

<鋼索関連事業>

ワイヤロープの国内需要は期待通りにはいかなかったものの、公共投資の増加による需要増加により、国内向け販売数量、売上金額とも前年同期に比べ増加となりました。一方、輸出については、受注は伸びているものの出荷増加にはタイムラグがあり、プラス要因とはなりません。

その結果、鋼索関連事業全体の売上高は9,015百万円と前年同期に比べ3.2%増加となり、営業利益は381百万円と前年同期に比べ201百万円の増加となりました。

<エンジニアリング関連事業>

吊構造用ケーブルでは、橋梁向けの売上金額は前年同期に比べ増加しましたが、建築向けの売上金額は減少しました。また、落橋防止ケーブルの売上金額は前年同期に比べ減少しましたが、道路騒音防止関連製品の売上金額は前年同期に比べ増加しました。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は1,206百万円と前年同期に比べ19.9%減少となり、営業利益は36百万円と前年同期に比べ66百万円の減少となりました。

<その他>

不動産関連事業の売上高は46百万円と前年同期に比べ1.5%増加となり、営業利益は35百万円と前年同期に比べ2百万円の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末との比較において、次のとおりとなりました。
総資産は、408百万円減少の44,753百万円となりました。これは主として現金及び預金が減少したことによるものです。

負債は、476百万円減少の25,396百万円となりました。これは主として賞与引当金が減少したことによるものです。

純資産は、67百万円増加の19,357百万円となりました。これは主としてその他有価証券評価差額金の増加によるものです。また、自己資本比率は35.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の通期の業績予想につきましては、当第3四半期累計期間までの業績動向を踏まえ、また今後の需要動向等を勘案して見直しを行った結果、前回公表（平成25年10月23日）いたしました業績予想を修正いたします。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,574	7,856
受取手形及び売掛金	9,845	9,909
商品及び製品	3,851	3,916
仕掛品	2,256	2,276
原材料及び貯蔵品	1,452	1,677
繰延税金資産	308	189
その他	426	456
貸倒引当金	△46	△48
流動資産合計	26,670	26,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,241	4,151
機械装置及び運搬具（純額）	4,445	4,269
工具、器具及び備品（純額）	154	142
土地	6,041	6,041
リース資産（純額）	54	76
建設仮勘定	50	105
有形固定資産合計	14,987	14,787
無形固定資産	245	225
投資その他の資産		
投資有価証券	1,166	1,404
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	1,288	1,270
その他	1,004	869
貸倒引当金	△201	△36
投資その他の資産合計	3,258	3,508
固定資産合計	18,491	18,521
資産合計	45,162	44,753

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,532	2,658
短期借入金	5,789	6,872
リース債務	22	29
未払費用	1,180	1,170
未払法人税等	244	97
賞与引当金	496	224
その他	620	481
流動負債合計	<u>10,886</u>	<u>11,534</u>
固定負債		
長期借入金	11,595	10,359
リース債務	38	59
退職給付引当金	2,296	2,413
役員退職慰労引当金	58	57
環境対策引当金	8	8
繰延税金負債	520	524
負ののれん	30	—
その他	437	438
固定負債合計	<u>14,986</u>	<u>13,861</u>
負債合計	<u>25,872</u>	<u>25,396</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	2,847	2,850
自己株式	△1,353	△1,355
株主資本合計	<u>15,911</u>	<u>15,912</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	75	112
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益累計額合計	75	113
少数株主持分	3,301	3,330
純資産合計	<u>19,289</u>	<u>19,357</u>
負債純資産合計	<u>45,162</u>	<u>44,753</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	20,366	20,752
売上原価	16,442	16,666
売上総利益	3,924	4,085
販売費及び一般管理費	3,245	3,363
営業利益	678	721
営業外収益		
受取利息	36	34
受取配当金	11	13
負ののれん償却額	46	30
固定資産賃貸料	36	24
その他	50	23
営業外収益合計	181	126
営業外費用		
支払利息	132	138
その他	125	113
営業外費用合計	258	252
経常利益	601	595
税金等調整前四半期純利益	601	595
法人税、住民税及び事業税	138	164
法人税等調整額	82	119
法人税等合計	221	284
少数株主損益調整前四半期純利益	380	311
少数株主利益	38	48
四半期純利益	341	263

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	380	311
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	41
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益合計	26	43
四半期包括利益	407	354
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	369	301
少数株主に係る四半期包括利益	37	53

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,075	8,737	1,507	20,320	46	20,366	—	20,366
セグメント間の内部売上 高又は振替高	839	135	1	976	—	976	△976	—
計	10,914	8,873	1,509	21,296	46	21,343	△976	20,366
セグメント利益	362	179	103	645	33	678	—	678

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

2 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,483	9,015	1,206	20,705	46	20,752	—	20,752
セグメント間の内部売上 高又は振替高	554	160	1	716	—	716	△716	—
計	11,038	9,175	1,208	21,422	46	21,468	△716	20,752
セグメント利益	268	381	36	686	35	721	—	721

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。